

長久保公園 さくら MAP



サクラは、万葉集でも詠まれているほど、古くから日本で愛され続け日本人にとってなじみ深い花の一つです。

日本を代表する花として知られていますが、実は、北半球の温帯地域には様々なサクラが広く分布しています。

日本に自生する野生種のサクラは10種類で、栽培品種は少なくとも200種類以上存在しています。

そのうち、長久保公園では20種類程のサクラが見られます。



長久保公園
NAGAKUBO PARK



① カワヅザクラ (河津桜)

オオシマザクラとカンヒザクラの自然交雑から生まれたとされ、静岡県河津町で発見された品種。1月下旬から咲き始め、開花期にニュースにもなる人気の品種。
(2月下旬～3月上旬)

② フゲンゾウ (普賢象)

オオジマザクラを基に生まれた日本原産の栽培品種。花の中央から出ている2本の雌しべの先端が曲がっており、普賢菩薩の乗る白象の鼻に似ていることが名前の由来となっている。
(4月中旬)

③ オオシマザクラ (大島桜)

日本の固有種で日本に自生する野生種の1つ。サトザクラ類に含まれる多くの品種のもとになったといわれる。一重で大輪の白い花を咲かせ、白花と緑の葉が同時に展開する。桜餅の葉として使われる。
(4月上旬)

④ ヤマザクラ (山桜)

日本の固有種で日本に自生する野生種の1つ。淡紅色で一重の花を咲かせ、葉芽と花が同時に展開する。野生種のため個体間の変異が大きく、ソメイヨシノとは対照に、同じ地域でも個体ごとに開花期が前後する。
(4月上・中旬)



⑩ カンヒザクラ (寒緋桜)

中輪の一重咲き、濃い紫紅色で半開した釣鐘状の下向きにつける。亜熱帯性の野生種で沖縄のサクラといえばカンヒザクラを指す。
(3月中旬)



⑪ イチヨウ (一葉)

オオシマザクラ系統に属するサトザクラの代表的な品種。西日本にはあまり普及しておらず、一般的な知名度は高くないが、関東地方では数多く植栽される。毎年、総理大臣が主催する「桜を見る会」の主役はこのサクラ。
(4月中旬)

() 開花時期を明記しています。
開花時期は気象状況や植栽環境により異なります。
山溪セレクション「日本の桜」(川崎哲也 他 1993)



⑨ ヤエベニシダレ (八重紅枝垂)

シダレザクラの中でも人気のあるエドヒガン系の園芸品種。垂れ下がる枝に、濃紅色の八重咲で小輪の花をいっぱいつける。
(4月上旬)



⑧ ケンロクエンキクザクラ (兼六園菊桜)

一つの花に花びらが300枚以上つき、ちょうど菊の花のように咲くことからこの名で呼ばれている。普通の桜と違って、濃紅、薄紅、白と色が移っていくのが特徴。全国にある桜のなかでも特に珍しい品種。
(4月下旬)



⑦ オカメ (お亀)

英国の桜研究家イングラムがカンヒザクラとマメザクラを交配して1947年に作出した品種。外国産の品種だが早咲・多花性で樹が大きくならないので鉢植えや庭木として広く普及している。
(3月下旬)



⑤ ソメイヨシノ (染井吉野)

日本固有種のおオシマザクラとエドヒガンの交配によって生まれたのが始まりとされる。単一の樹を始原とし、そのほとんどがまったく同じDNAを持つクローンであることが近年明らかになっている。
(4月上旬)



⑥ ハルメキ (春めき)

2000年3月に品種登録された神奈川県南足柄市固有の桜別名「足柄桜」と呼ばれている。カンヒザクラとシナミザクラの交雑種とされ、色は、ソメイヨシノよりピンクの色が濃く、河津桜よりも色が薄い甘い香りがするのも特徴。
(3月中旬)